

修了式を考えて

金子 房子

本園は一年保育なので、修了式は子供達の育ちの一年間の課程を修したことになります。

私の園では、教育目標の達成の日が修了式であり、この日にむけて、子供達も、先生も保護者も、園生活の中でいろいろな経験や体験を通して小さながんばりを積み重ねてまいりました。

そのようなことから、修了式はその年度の子供達の姿に応じて「ねらい」もいく分変わり、行う方法も変わってまいります。

修了式を迎える一か月位前に職員全員で子供達の一人一人の育ち具合を話し合い、幼稚園生活のしめくくりをどう過させてあげたいか話し合います。次に、では本年度の修了式はどのような「ねらい」で挙行しようか方法等を相談いたします。

私は若い先生方がもっている若い感覚や創意を生かし

たい、一人一人の子供の心の片隅に暖かい、ほのぼのとした思い出を作ってあげたい、保護者にも子供の一つの成長の過程の思い出としてもてるように等々、夢はたくさんあります。しかし修了式のその場でしか味わうことの出来ないこともあるのではないかと考えたり、いろいろな方面から話し合った結果、次のような願いをもって昨年度は修了式を挙行しようと決めました。

1、意外なことに若い先生から、自分の学生時代の卒業式を思い返し、厳かな雰囲気をもつことが必要なことの見えがでた。

2、小さい子供達でも、緊張して身がひきしまる経験もさせることも必要ではないか。誇らしい気持をいだかせることも味わわせない。何か一つの目標をやり遂げた成功感・満足感をもたせることを通して、小学校へ入学する自信と期待感につなげていきたい。

3、式の方法として、一人一人の子供がはっきりとした存在感をもてるような進め方にしたい。そのために、園長の手から一人ずつ修了証書を授与する、入退場、お別れのことば等で一人ずつの子供がはっきりと表現

できるような工夫やアイデアを折り込んでいきたい。

4、式場の設定も式花に至るまで細心の配慮をして明るく暖かいものにしていきたい。更に歌や音楽も精選して雰囲気をもり上げていきたい。

以上が先生達の願いでした。私といたしましては、これからの幼稚園教育を担う若い先生の意見がこのような愛情こもった考えをもっていることに喜び、大賛成したのです。

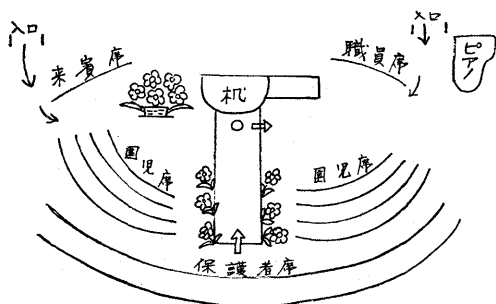
次に式次第ですが、これは他園と同じようなものと考えております。

昭和〇年度 保育修了証書授与式次第

- 一、おじぎ
- 一、君が代
- 一、保育修了証書授与
- 一、園長のはなし
- 一、お祝いのことば（来賓）
- 一、お別れのことば
- 一、修了のうた
- 一、おじぎ

以上

修了式場作りについて



○ 式花は、愛しい花を丈を低くつける。(スイトピー)

修了式当日の状況について

- (1) 式の始まる前に、来賓、保護者が着席
- (2) 園児が「修了のうた」～さくらの蕾がふくらんで～と元気に手をふり大きな声で歌いながら、一小節毎に左右の入口からクラス毎に一名ずつ入場し着席す

る。一人ずつ園児を祝す気持で保護者が拍手をもつて迎える。

(3)ピアノにあわせておじぎをし式は始まる。

(4)次に「君が代」を保護者を中心に歌う。

(5)一人ずつ名前を呼ばれると元気に返事をして中央の台に進み園長より修了証書を受ける。園長は一人ずつ、顔をしっかりとみて「おめでとう」と祝すことばをかける。保護者の方を向いて証書を受けたことを報告するように見せる。その時にはどの親も感激に涙し、拍手が湧く。修了証書授与中にはバックミュージックとしてサンサーンスの白鳥の曲を流す。

(5)園長のはなしは子供達の印象に残るような一言をしていただく。保護者にも一年間の成長のよろこびと園への協力の感謝のことばをいわれた。

(6)お祝いのことばは、お客さま全員に短かく「おめでとう。よくやったね。よかったね」程度の心のこもったことばをいただく。

(7)お別れのことばは、始めに全員で歌「思い出のアルバム」の一番を歌い、一人ずつ立って園生活で自分

の一番楽しかったこと思い出深かったことを入園から修了までのことを自分で考えて友達や先生、保護者に語るように話す。内容は修了式に至る日まで次第に変わってきた。全員が話し終るとみんなで考えた決意のことばを全員で声をそろえていい「思い出のアルバム」の六番を歌う。

(8)修了のうたはみんな一生けんめい歌うように指導してきた。年少児がいないために「春の光が照っている」一番はおかあさんが歌う。一おにいさま方ゝのところはクラスの名前を入れる。二・三番は間奏を入れて言葉の意味をよく解って歌う。

(9)終わりのおじぎは終了までしっかりとやるというやうくそくから特に指導している。

(10)退場は入場と逆に「一年生になったら」の歌を胸に証書をかかえて元氣一杯、来賓や保護者の拍手に送られて退場する。

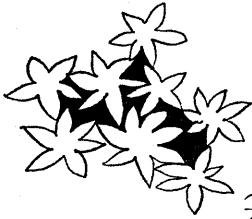
以上、概略ですが来賓も保護者も、とても心のこもった、思い出深い修了式といわれました。

どちらの園でも、それほどの違いのない性格をもった

行事である修了式でございますが毎年、園の教育内容の充実を図った結果が何か修了式に表現されるのではないかと考えています。まだ、教育機器を活用して、スライド、OHP、ビデオ等を組み入れる、曲の選択を考慮する等多くの課題が残されています。

毎年のことですが修了式が終り、子供達を送り出すと、この子供達が二十一世紀には社会人として活躍するであろうと考えるときに、人間の基礎作りをしっかりと身につけさせることができたろうかと教師として反省いたします。私は先生方と共に反省をし、そして次年度への情熱をいただき、決意をかたくいたします。そろそろ「本年度はどんな修了式にしましょうか」と職員間で話が出る時期となつてまいりました。

(大田区立矢口幼稚園)



私の園の卒園式

水 沼 昭 子

「子ども達にとって卒園式とは——」私たちの園では保育活動を展開する時、大事に考えていることは、なぜ、そうするのか」の発想です。特に行事(運動会にしろ、合宿保育にしろ、何でも)を前にして「子ども達に何をさせるか」ばかりが考えられがちですが、まず、「なぜ、それをさせるのか」を問う事から始めます。ですから、その「なぜ」の問いによって、前年とは、まったく違う展開の「行事」がくりひろげられます。毎年、園生活を創り出す子どものタイプも、構成メンバーも、さらにそれを取り巻く自然界も異なる中で、幼稚園の行事が毎年同じである事は、むしろおかしい様に思えます。決して伝統や形式を軽んじての発想ではありません。むしろ、「なぜ」の問い直しの結果、伝統が継続されて行く事なのぞましいと思うのです。そうした考え方を踏まえて「私の園の卒園式」があるわけです。